

本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

第4問 (20点)

田畑製作所では、製造部門（第1製造部・第2製造部）と補助部門（動力部・運搬部・工場事務部）を設けており、直接作業時間を配賦基準として製造間接費を部門別に予定配賦している。以下の[資料]にもとづいて、各問に答えなさい。なお、補助部門費の配賦方法は直接配賦法を採用し、ここ数年で予定配賦率の変更はない。

[資料]

1. 製造指図書の内訳

番号		直接材料費	直接労務費	直接作業時間		備考
				第1製造部	第2製造部	
#100	7月	40,000円	32,000円	40時間	20時間	7月 製造着手
	8月	240,000円	128,000円	80時間	40時間	8月 完成・販売
#101		670,000円	280,000円	260時間	130時間	8月 製造着手 一部仕損 完成
#101-2		56,000円	80,000円	60時間	30時間	8月 補修開始 補修完了
#102		64,000円	30,000円	10時間	5時間	8月 製造着手 仕掛中

#101-2は正常な仕損が生じた#101を補修するために発行した指図書である。

2. 予定年間直接作業時間

第1製造部：5,000時間 第2製造部：2,800時間

3. 補助部門費予算の配賦資料（年間）

	配賦基準	第1製造部	第2製造部	動力部	運搬部	工場事務部
動力部費	動力提供量	100kWh	120kWh	—	10kWh	10kWh
運搬部費	運搬回数	80回	70回	5回	10回	—
工場事務部費	従業員数	50人	40人	10人	15人	5人

問1 答案用紙の（予定）年間補助部門費配賦表を完成させ、予定配賦率を計算しなさい。

問2 答案用紙の仕掛品勘定（8月）を作成しなさい。

第 5 問 (20点)

飯田工業は、同一工程で等級製品 X、Y、Z を連続生産している。製品原価の計算方法は、1 か月の完成品総合原価を製品 1 個当たりの重量によって定められた等価係数に完成量を乗じた積数の比で各等級製品に按分する方法を採用している。次の [資料] にもとづいて、答案用紙の各項目の金額を計算しなさい。なお、月末仕掛品の評価方法には平均法を用い、正常仕損の処理は度外視法によること。

[資料]

1. 生産データ

月初仕掛品	160 個 (50%)	正常仕損	160 個
当月投入	1,920 個	月末仕掛品	320 個 (50%)
	2,080 個	完成品 X	960 個
		Y	320 個
		Z	320 個
			2,080 個

(注) () 内は加工進捗度を示している。

工程の始点で材料を投入し、工程の途中で仕損 (処分価格はゼロ) が発生した。

2. 原価データ

月初仕掛品原価		当月投入原価	
直接材料費	160,000 円	直接材料費	2,144,000 円
加工費	184,000 円	加工費	4,040,000 円
	344,000 円		6,184,000 円

3. 製品 1 個当たりの重量

X	Y	Z
1,280g/個	640g/個	320g/個